

【一般演題】

経口的上部内視鏡検査に使用するマウスピース選定基準の明確化

社会医療法人共愛会 戸畑共立病院 臨床工学科¹⁾

○林 朋奈¹⁾、町井 基子¹⁾、久野慎太郎¹⁾
渡邊千代美¹⁾、灘吉 進也¹⁾

【目的】

経口的上部内視鏡検査時は内視鏡を噛まれる等の損傷防止や、唾液や洗浄液等の液体の誤嚥防止の効果があるため、マウスピースを用いて検査を施行する。当院において、マウスピースの大小に限らず種類は複数あるが、その選定に明確な基準はない。そこで今回、当院におけるマウスピースの選定基準について検討した。

【方法】

当院で採用しているマウスピース3種類、マウスピースA：ブロックス[®]54Fr、マウスピースB：スコープセイバー[®]細径用、マウスピースC：エンド・リーダー[®]スタンダードタイプを対象とした。実験内容は、1. 嚙付部をノギスで測定した。2. 開口部をノギスで測定した。3. 内視鏡のマウスピース通過の可否を確認した。経口的上部内視鏡検査時に当院で主に使用している内視鏡、GIF-H290Z（先端部外径：9.9mm）、GIF-Q260（先端部外径：9.2mm）、GIF-H290（先端部外径：8.9mm）、EG-6400N（先端部外径：5.8mm）を対象とした。4. マウスピースを噛んだ場合を模擬し、プライヤーで嚙付部を挟み、プライヤーのハンドルを1mm、2mm、3mmと狭め、嚙付部に力を加えた状態で開口部を測定した。

【結果】

1. 嚙付部はA：29.9mm、B：18.5mm、C：20.0mmであった。2. 開口部はA：20.9mm、B：13.5mm、C：11.0mmであった。3. A、Bは全ての内視鏡が抵抗無く通過した。CはEG-6400N以外通過しなかった。4. プライヤーのハンドルを1mm、2mm、3mm狭めた時のA、B、Cの開口部はそれぞれA：20.1mm、19.8mm、18.9mm。B：12.0mm、11.8mm、11.0mm。C：10.8mm、10.7mm、10.6mmであった。

【考察】

患者の口の開き具合は様々であり、それに適したマウスピースの選択が必要である。Aは全ての内視鏡が通過可能であったが、通過不可の内視鏡があったため、B、Cは抵抗無く挿入できる内視鏡の選定が重要となることが考えられた。さらに、B、Cどちらかを選択する場合、EG-6400N使用時は強度が高い点や舌圧子がある点でCが優れていることが示唆された。しかし、CはA、Bと比較して高価な点が課題である。今回の実験結果をもとに、マウスピース選定基準のフローチャートを作成し、業務改善に繋げることができた。

【結語】

当院におけるマウスピースの選定基準を明確化した。マウスピースの選定は患者の口の開き具合を考慮する必要があり、さらに選定したマウスピースに対し、使用可能な内視鏡を選定する必要がある。